

[維持管理コストに着目した新しい街路樹の選定]
セイヨウシデ‘ファスティギアータ’の特性把握

渋谷圭助・田旗裕也
(都市環境科)

【要約】セイヨウシデ‘ファスティギアータ’は、樹幅が狭く低管理型街路樹としての可能性が高い。また樹高と胸高幹周との相関も高いことから、公共工事などに用いられる緑化資材としての取り扱いにも問題はない。

【目的】

都は「10年後の東京～東京が変わる～」(平成18年12月22日知事本局)の中で、都内の街路樹の充実を図ると発表した。一方、街路樹の維持管理費は切迫している。そこで、低管理コストとして期待されているファスティギアータタイプ樹木の街路樹としての特性を評価する。ファスティギアータタイプ樹木とは、低位から発生する側枝が樹幹と平立する樹形が樹種特性の一つとして扱われている樹木の一群であり、今回は、民間需要を中心に近年需要が高まっている、セイヨウシデ‘ファスティギアータ’(以下、シデF)の樹種特性調査を実施したので報告する。

【方法】

ファスティギアータタイプ樹木の全国生産量は「平成16年度 公共緑化用樹木市場調査 供給可能量・調達難易度調査書」((社)日本植木協会)によった。調査は埼玉県・東京都内生産者の圃場及び東京都農林総合研究センター内に植栽されている樹木を用いた(表2 および図1参照)。対照として用いたケヤキ及びハナミズキの調査はシデFを調査した東京都内の生産者圃場にて実施した。

【成果の概要】

- 1) ファスティギアータタイプ樹木の産地は限定的であり、東京都は埼玉県に次いで全国2位に位置し、この2つの都県で全国の8割以上を生産している(表1)。
- 2) シデFは、街路樹として用いられている代表的な樹種と比較して、枝張りが少なく、ほっそりとした樹形であることが確認された(図2、表3)。
- 3) 現在、樹木の出荷規格として一般的に用いられている値は樹高と胸高幹周である。シデFは、ケヤキ、ハナミズキと同様に樹高と胸高幹周の間に相関関係が見られた(図3)。
- 4) 図2においてシデFは、樹高が大きくなるとハナミズキの枝張りを上回るが、生産場面でのハナミズキは剪定により枝張りが抑制されている。また、生産場面でのケヤキは高密度で栽培されているため枝張りは抑制されている。調査した3つの地点においてシデFは、隣接する樹木との枝の重なりがなく、本調査で得られた値が樹種特性を現わしていると考えられる。
- 5) 表4に出荷規格を示した。シデFは得られた近似式から樹高3.5及び4.0mの枝張り、胸高幹周を算出した。シデFは2樹種と比較して枝張りの少ない出荷規格であり、剪定回数の低減が見込まれることから、低管理型街路樹として有望である。

表1 地域別生産割合

埼玉県	58.5%
東京都	22.2%
北海道	15.8%
長野県	1.2%
栃木県	0.8%
神奈川県	0.8%
茨城県	0.4%
愛知県	0.1%
兵庫県	0.1%
福岡県	0.1%

表2 調査地点

名称	圃場所在地	調査本数	調査日
埼玉	埼玉県さいたま市寺山	20	5/31
立川	東京都立川市上砂町	30	11/10
センター	東京都立川市富士見町	20	6/15

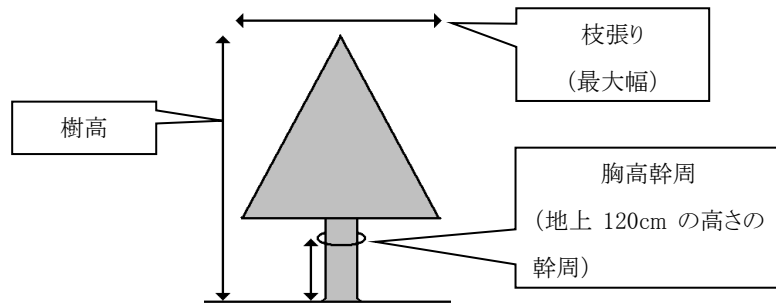


図1 調査項目

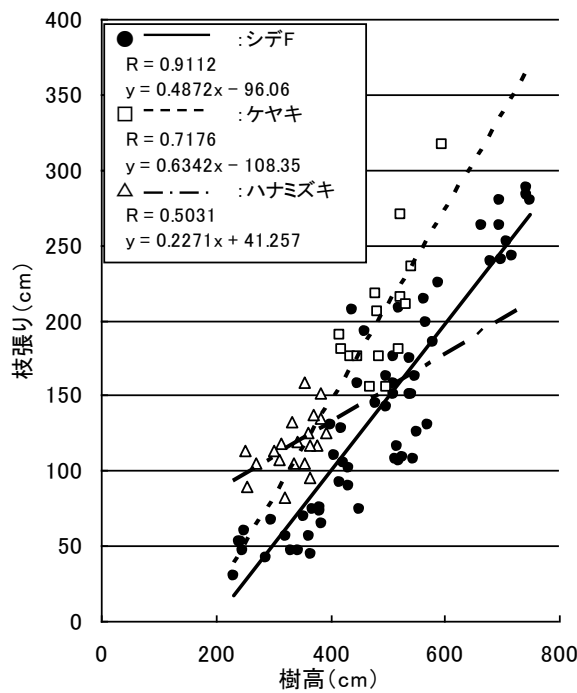


図2 樹高と枝張りとの関係

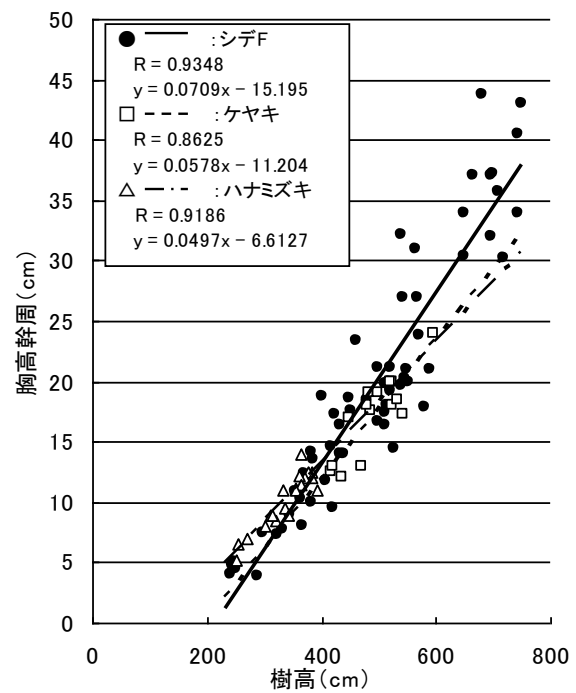


図3 樹高と胸高幹周との関係

表3 3樹種の特性比較

	樹高/枝張り
シデF	4.1 a
ケヤキ	2.5 b
ハナミズキ	3.0 b

異なる小英文字間には Bonferroni 法により有意な差がみられる

表4 出荷規格*

	ケヤキ	ハナミズキ	シデF	
樹高(m)	4.0	3.5	3.5	4.0
枝張り(m)	1.2(1.45 ^{*2})	1.0(1.21 ^{*2})	0.74 ^{*2}	0.99 ^{*2}
胸高幹周(cm)	15 (11.9 ^{*2})	18 (10.8 ^{*2})	9.6 ^{*2}	13.2 ^{*2}

* 建設物価(平成18年12月号(財)建設物価調査会)より作成

*2 図2及び3の近似式より算出した